

今日の桜島は少しかすんで見えるが、冬から初春の桜島の風景は格別だ。よく見ると、「そこには象の皮膚のようにみにくい皺のよった山肌が浮かび上がっている」と描いたのは、遠藤周作の小説『火山』の一説だが、その荒々しい山が夕方、刻々と変化していく様はダイナミックだ。

鹿児島を「故郷もどき」と呼んだ向田邦子は、サンロイヤルホテルに滞在し、そこから見た桜島を見事に描写している。去年の特番でも取り上げられていたが、桜島の描写としては最高のものの一つだろう。「桜島といえば、サンロイヤルホテルの窓から眺めた桜島の凄みは、何と云ったらよいのか。午後の太陽の光りで、灰色に輝いていた山肌が、陽が落ちるにつれて、黄金色から茶色に変わり、紫に移り。墨絵から黒のシルエットとなって夜の闇に溶け込んでゆく有様は、まさに七つの色に変わるといふ定説通りであった。考えれば、これも40年前と少しも変わらぬ筈なのに、十二歳の女の子の目は、一体何を見ていたのであろう。」(『眠る盃』収録の『鹿児島感傷旅行』より)

この桜島を築山に、錦江湾（鹿児島湾）を池に見立てて別邸の庭園として島津の殿様が作ってしまったのが仙巖園だ。今は日豊本線と国道が海を隔てて、景色としてはやや興ざめするが、それでも自然をそのまま借景として取り入れた庭園からの眺めは素晴らしい。明治維新期のイギリス人外交官で薩摩を愛したアーネスト・サトウも、ここで桜島を見ながら食事や茶を楽しんだに違いない。サトウの記述ではないが、盟友で医師のウィリアム・ウイルスは、薩英戦争の時にイギリス艦隊とともにやってきた錦江湾の印象を長兄ジョージに書き送っている。「我々の目的地である鹿児島湾は、約50キロの長さにわたって海岸線が続き、実に壮大で美しい、絵のような風景で、全体に切り立った崖に囲まれているので、いわば大地の巨大な裂け目のようにみえます。海岸から数メートル以内の所で、水深が大体80尋（144メートル）あって、海岸からそれと同じくらいの高さで陸地が続いているといえ、このようなところは、訪ねてみるに価する場所であることがお分かりになるでしょう。しかし、土地はけっして不毛であるどころか、緑の木々や草が眼を楽しませてくれる場所があるかと思うと、またある場所の壮観さは、想像を絶するものがあります。農作物も実り始めており、明るい緑が、熟した麦の黄ばんだ緑と並びあっています。もし、友だちがすべて一堂に会して、この土地の巧みに仕組まれた壮観さと新奇さ掻き立ててくれる楽しみに接し、それを心ゆくまで味わうことができれば、これ以上の望みはありません。(『遠い崖—アーネスト・サトウ日記抄』萩原延壽著より)

ヨーロッパからアジアへ、各地を巡ってやってきたウイルスが、最大級の賛辞を込めて第一印象を語ったこの土地こそ、鹿児島だった。ウイルスはこの後、明治3年（1870年）から明治10年にかけて約7年の歳月を鹿児島で過ごすことになるのだが、その時はそれを想像もしていなかっただろう。私も新聞社の海外駐在であちこち見てきたつもりだが、初めて錦江湾の周りを車で廻った時の印象はウイルスの気持ちに近い。

そんな鹿児島ならではの光景を象徴する建物が与次郎に誕生した。我がKKBの新館だ。壁面の市松模様のブルーは、錦江湾の青。オレンジは夕日に映える桜島が一瞬輝く時に見せるシャイニング・オレンジ。KKB自慢のこの建物を、KKBアネックス、と呼びたいのだが、いかがだろう。(会員からの希望がありましたので、原稿を頂き掲載いたしました。)

### ●ホームクラブ出席率80%を目指しましょう！

出席報告	第2834会	第2832回訂正
会員数	39(35)名	39(35)名
出席数	21(20)名	25(23)名
出席率	58.33%	67.57%

### ●今後の予定

3/8(水)	ロータリーを語り合う例会 (青少年奉仕・米山記念奨学会)
3/15(水)	PETS報告 上菌会長エレクト
3/21(火)	第9回 指宿RCとの合同例会

### 市内ロータリークラブのプログラム

★印は記帳メイクアップ受付があります。

RC	例会日	プログラム	例会場	RC	例会日	プログラム	例会場
東	3/2(木)	★早朝例会6:30～	サンデイズイン鹿児島	東南	3/7(火)	青少年交換留学生卓話	サンロイヤル
北		米山奨学生送別会	レプラント鹿児島	城西		クラブ協議会(PETS報告)	東急REIホテル
サザン		★4日車いすバスケットボール大会に変更	東急REIホテル	西	3/8(水)	クラブフォーラム	山形屋
鹿児島	3/3(金)	外部卓話 地域おこし協力隊 半田あかり様	山形屋	西南		クラブ協議会(PETS報告)	ゆうづき
中央	3/6(月)	会員卓話 鹿児島マラソン出場者	山形屋				